



プレスリリース
平成30年3月30日
国立研究開発法人
宇宙航空研究開発機構
三菱スペース・ソフトウェア株式会社

D-NET対応「災害時情報共有アプリケーション」の製品化について

三菱スペース・ソフトウェア株式会社（以下、MSS）は、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（以下、JAXA）が研究開発を進めている「災害救援航空機情報共有ネットワーク（D-NET）」の成果の一つであるD-NET IP（※）＜別紙1＞の技術を『D-NET対応「災害時情報共有アプリケーション」（DiGMaps）』＜別紙2＞として製品化し販売することになりました。

D-NETは、災害時に被災地や都道府県庁、ならびに府省庁などにおいて、航空機などによる救援活動をより効率的かつ安全に実施するためのシステムです。従来、災害対策本部などでは、紙の地図やホワイトボードなどを用いて災害情報や各防災機関の活動状況などの情報の管理、共有化が行われていましたが、D-NET IPを用いることにより、これらの情報を効率的に電子化し、共有化することが可能になります。

D-NET IPは、これまで防災訓練などで評価・改良を進めるとともに、「平成29年7月九州北部豪雨」においても試行的に運用され、自治体や地方の消防本部など22の機関でその情報が活用され、より効率的な救援活動の実施に貢献することができました。

MSSは、平成29年10月20日にJAXAとD-NET IPに関する知的財産の利用許諾契約を締結し、製品化に向けた開発を進めて来ました。平成30年4月1日から、防災関係機関などに向けた情報共有アプリケーションとして本製品の販売を開始します。

（※）D-NETの情報をインタラクティブ・プロジェクタを用いて入出力する技術

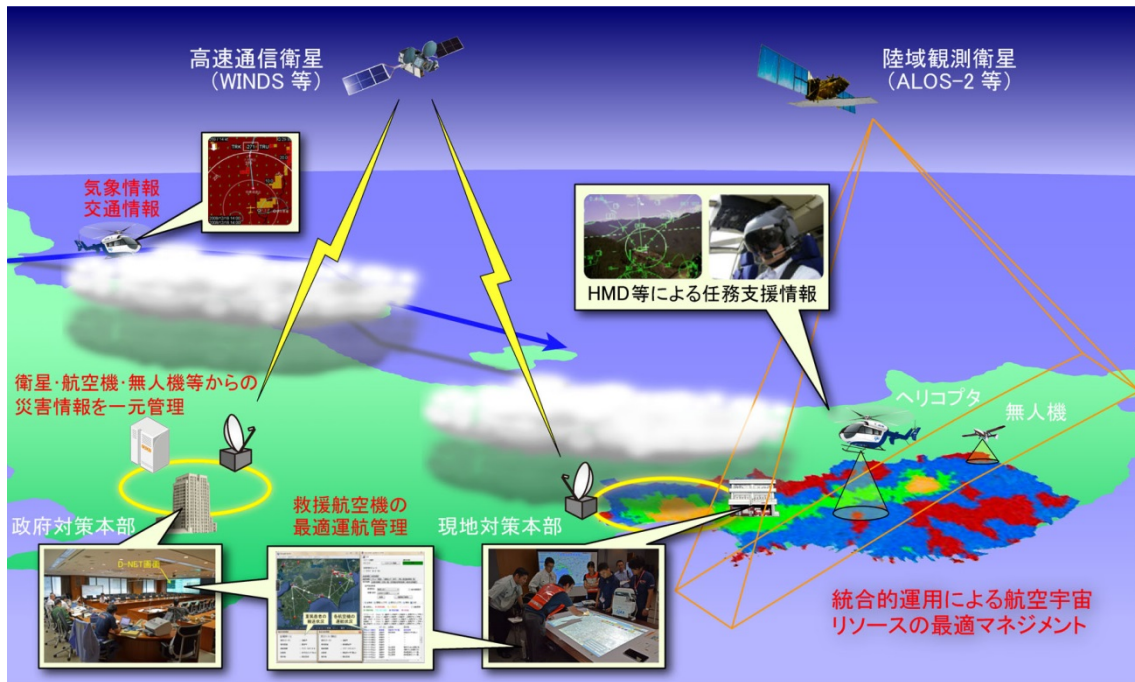
○JAXA プレスリリース

http://www.jaxa.jp/press/2018/03/20180330_d-net_j.html

本件のお問合せ先 三菱スペース・ソフトウェア株式会社 営業本部 中部営業部 電話 052-533-2641 JAXA 航空技術部門 電話 050-3362-8036

以上

OD-NET 概念図



資料提供：JAXA

○防災訓練における D-NET IP の評価の様子



従来方法



D-NET IP

資料提供：JAXA

○インタラクティブ・プロジェクタ

パソコンなどからのデータを、プロジェクタを用いて会議用テーブルなどに映し出し、タッチペンを使って書き込んだデータをパソコンに取り込む機能を持つ。

○広報誌「JAXA 航空マガジン FLIGHT PATH」 No.20 / 2018 SPRING : P.8、P.12 に関連記事

<http://www.aero.jaxa.jp/publication/magazine/>

○JAXA 航空技術部門 WEB サイト

<http://www.aero.jaxa.jp/research/star/dnet2/>

災害情報をより早く入力！より早く共有！

D-NET 対応「災害時情報共有アプリケーション」 ～ DiGMaps ～

概要

D-NET 対応「災害時情報共有アプリケーション」(DiGMaps)は、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)の研究開発の成果を実際の災害現場にて活用できるように、JAXA より知的財産の利用許諾を受け、製品化したものです。

DiGMapsは、迅速な部隊派遣の判断支援、効率的な航空機運用支援を目的としたWeb GIS(Geographic Information System)を利用した災害時情報共有アプリケーションであり、対策本部や現場で入力された部隊情報、災害情報や、自治体等から得る消防防災ヘリ等の動態情報を集約し、各拠点で情報共有することができます。



DiGMaps コンセプト図

特長

紙地図での状況把握をデジタル的に再現

災害発生時に、災害対策本部等においてこれまでに実施してきた紙の地図やホワイトボード等を利用した情報の整理、提供をデジタル化し、従来の運用方法を踏襲する形で、情報共有アプリケーションを実現しました。インタラクティブ機能付きプロジェクタを利用することで、従来より紙の地図にペンで情報を書いているように、電子地図上に電子ペンで情報を入力しながら、災害状況の把握、救援計画の策定等を効率的に行うことができます。

ノートPC 1台から利用可能

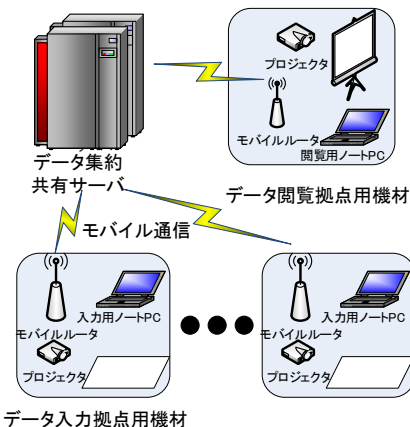
DiGMapsは、規模に応じたシステムに対応ができます。インタラクティブ機能付きプロジェクタが無い環境においても、ノートPC1台による最小構成にて利用が可能です。また、複数の災害拠点での情報入力および災害対策本部他複数拠点での情報モニター等、大規模なシステム構成による利用が可能です。

高い可搬性を実現

災害拠点において災害情報を入力する際の構成を、ノートPC、モバイルルータおよびインタラクティブ機能付きプロジェクタ(IP) (但し IP は無くとも入力可能)とすることにより、設置が容易で高い可搬性を有します。

情報共有

災害拠点入力した災害情報を対策本部等の遠隔地において即時にモニター、確認することができます。また、目的に応じて表示したい情報を絞って確認することができます。



システム構成例

データ集約用のサーバを用いて、各拠点での入力、閲覧を想定した構成

主な機能

災害情報の 入力/表示

点、線、図形(ポリゴン)を用いて位置情報と合わせ災害情報を入力します。また、災害情報ファイルを登録し、地図上、一覧表にて表示します。

衛星画像の 簡易判読

災害前後を撮影したGeoTIFF形式のレーダ衛星画像を簡易的に差分比較し、変化点(災害発生場所など)を抽出し、表示します。

部隊情報の 入力/表示

救援部隊等の配置(位置)情報を入力します。また、部隊情報ファイルを登録し、地図上、一覧表にて表示します。

動態情報の 取得/表示

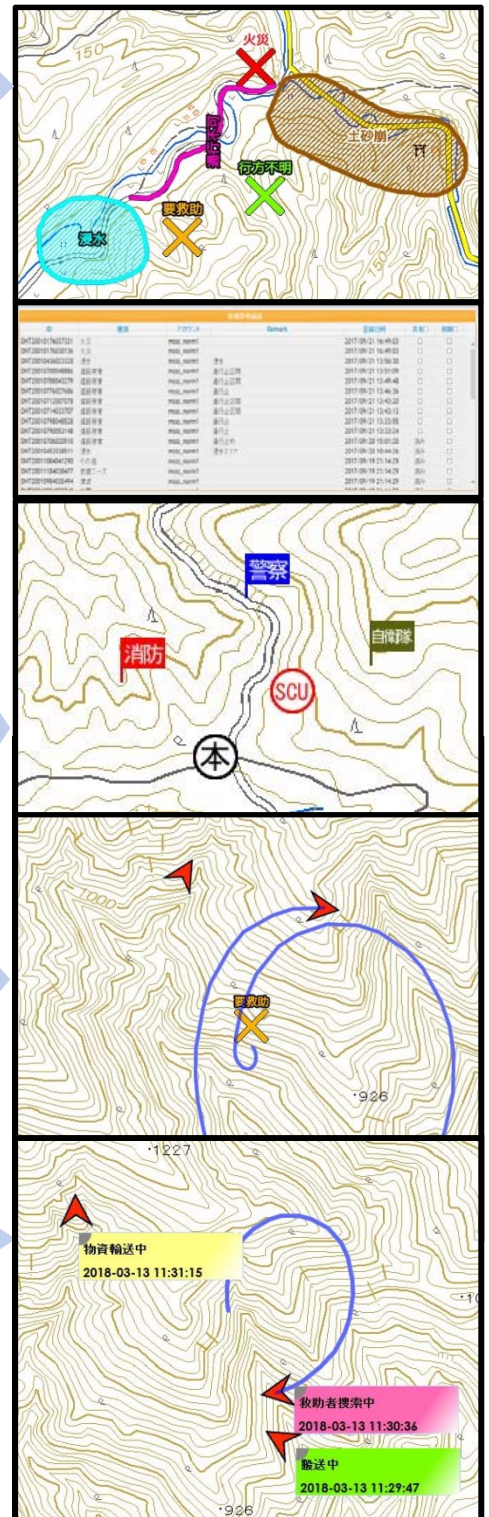
航空機の位置、状態情報を外部インターフェース先から取得し、地図上へ即時に表示します。

付箋紙の 入力/表示

地図上へ付箋のように注記事項を入力、表示します。また、動態情報については、動態の位置に合わせて、付箋の表示位置を自動的に変更します。

情報共有

災害情報、部隊情報など各拠点で入力された情報を、情報毎に全拠点へ共有します。



本パンフレットに使用している本製品画面の背景図は、「国土地理院」の「地理院タイル」を使用しています。
本パンフレットに使用している本製品画面の表示内容は、サンプルです。

本製品は、ソフトウェア単体のため、以下についてはお客様にてご準備頂く必要があります。詳細につきましては、お問い合わせ先までご連絡願います。

- ソフトウェアをインストールする計算機(PC など)
- 動態情報を収集、および、本ソフトウェアへ送信するための装置
- 背景地図
- 基本情報へ表示するための各建物の位置情報